

干拓地歴史マップ① ～干拓資料館周辺を歩く～



諫早ゆうゆうランド干拓の里がある小野島町や隣接する川内町には諫早湾の干拓や諫早の歴史を知るポイントがたくさんあります。自由にコースを周って歴史の息吹を感じてみましょう。



⑦小野島底井樋⑧川内町底井樋

(おのじまぞいのび、かわちまちぞいのび)
青木弥惣右衛門により、文化10年(1813年)完成。底井樋廻水により干拓地の水不足を解消しました。半造川の底に樋管を通し、輪内田井原の余り水を逆サイフォン方式で干拓地まで通しました。現在も干拓地を潤しています。

先人の知恵により諫早の干拓地の発展がありました



① 干拓資料館(かんたくじょうかん)

干拓の里内にあり、諫早湾干拓の昔から現在までの歴史を伝える資料館。「底井樋図面」や「底井樋御沙汰書」、当時使用されていた底井樋材など貴重な資料が収められています。干拓地模型や農機具、漁具の展示などもあります。



④小野島天満宮(おのじまてんまんぐう)

境内に青木弥惣右衛門(底井樋廻水の技術者)の顕徳碑、八大龍宮(じゅうごさん)があります。顕徳碑は昭和33年、小野島町民により建立されました。碑文は青木弥惣右衛門の直系の子孫、青木弥助によります。



⑥長崎地方航空機乗員養成所の碑

(ながさきちほうこうくうきぎょういんようせいじょうのひ)
昭和17年4月、逓信省により開所。民間の航空パイロットの養成を目的として創設されました養成所跡に建つ碑。建設には多くの市民や近隣住民が携わり、飛行場の土は小野中学校裏の山からトラックで運んだそうです。戦局の悪化により昭和20年3月より海軍の管理となりました。

②旧早川家住宅(きゅうはやくわけじゅうたく)

明治7年(1874年)諫早市赤崎町に元諫早家臣の木下助内氏の自邸として建てられました。木下吉之丞氏や元諫早市長早川員氏などが代々住んでいました。昔のお屋敷としては珍しく、総量張となっています。平成4年(1992年)に干拓の里に移築されました。



干拓の里周辺小野島町には戦時中、飛行場がありました



⑨山崎教清碑(やまさきのりきよひ)

諫早干拓の祖で西郷家の家臣山崎丹後守の三男。龍造寺家の諫早入部後(天正15年～)諫早に戻り川内町の大規模な干拓工事を行いました。川内町西の外れに社があり、地元住民により毎年「教清まつり(きょうせいまつり)」が開催されています。

③小野島給水塔(おのじまきゅうすいとう)

小野島天満宮近くにあり、長崎地方航空機乗員養成所、諫早海軍航空隊で使用されていた給水塔。飛行場の裏門から入って左側、医務室横にありました。当時の姿のまま残っています。

干拓の里では「庄屋屋敷」とよばれています



⑤諫早海軍航空隊顕彰碑

(いさはやくわいぐんこうくうたいげんじょうひ)
航空隊跡地に建つ顕彰碑。昭和20年3月より海軍の管理となった飛行場では、通称「赤とんぼ」と呼ばれる練習機で飛行訓練をしていました。練習生たちは卒業の際、お世話になったお宅の上をぐるぐる旋回してあいさつをしたあと、知覧などの配属先に旅立っていったそうです。



⑩海津見神社(わだつみじんじや)

寛政3年(1791年)創建の川内町の氏神様。海津見神を祭神としています。じゅうごさん(龍宮さん)祭りの宵祭りを毎年1月31日、本祭りを2月1日に行っています。田祈禱の際には浮立が奉納されます。

干拓地の中に建つ神社 地元住民に親しまれています

諫早ゆうゆうランド干拓の里/干拓資料館

〒854-0031 長崎県諫早市小野島町 2232 Tel:0957-24-6776/Fax:0957-24-1462